

琉球大学学術リポジトリ

春ヒナはこうして育てる

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 佑一, Matsuda, Yuichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19808

よく私共の行事に使はれてをりますが切り方が大きすぎて頂きにくいようです。味付と切り方を工夫すれば結構使えます。

昆布巻

揚かまぼこ 二分の一本

昆布 二本（巾広のもの）

干びよう 二本

煮出汁 二カップ

醤油 大匙二杯

砂糖 大匙二杯

味の素 少々

お酒（なくても可）少々

1、ゆで昆布はよく洗つて水気を切り 一三、四長さに切る。

2、干びようは四つ割りにする。

3、昆布でかまぼこをしつかり巻いて 両端を生のままの干びようで結ぶ。

4、煮立つた調味液の中で結んだ昆布巻きをとつぷりと煮込む。

5、味がついたら取出し斜めに二つに切る。

この他口取にはかまぼこ、肉料理、煮物、きんとん、卵料理を適宜加えるといいと思います。私共の料理は出来る丈相手に沢山食へて貰おうと 切り方が大きくなりすぎたり、盛りすぎたりして却つて相手を困らしている事が多いかと存じます。子供のための御馳走お喜びの時法事の時の御馳走も同じ物許りで頂く人に 又かという感じを与えてをります。今年のお正月からは家族の誰かが喜んで頂けるよう材料、色、味、切り方、盛り付けをつけて、見るからに美味しそうなお料理にいたしましょう。

（新 垣 博 子）

春ヒナはこうして育てる

養鶏の成功は、育雛に始まるといつても敢て過言ではないと思います。育雛に成功すれば、揃つて強健な若雌が育成出来ます。強健な若雌は、飼ひ主の希望に添うように沢山の卵をうんでくれることが予想されます。育雛の成功のために、欠くことの出来ない要素つまり育雛成績がよく、卵も沢山産ますためには必要な事項は、次のような事と考えます。

- 1、育雛の適期を選ぶこと。
 - 2、活力にとむよいヒナを育てること。
 - 3、充分な準備 即ち育雛器、えさ箱、水のみ、飼料、薬品などの準備。
 - 4、育雛器具の消毒。
 - 5、適当な管理特に温度、湿度、換気、清潔等に注意すること。
 - 6、十分な栄養を与えること。
- 以上の事項について、少し説明を加えてみます。

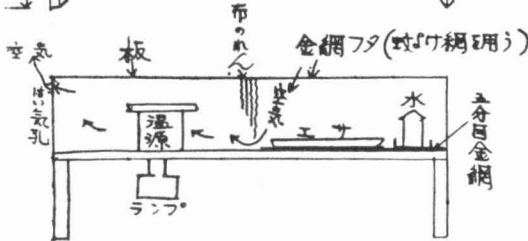
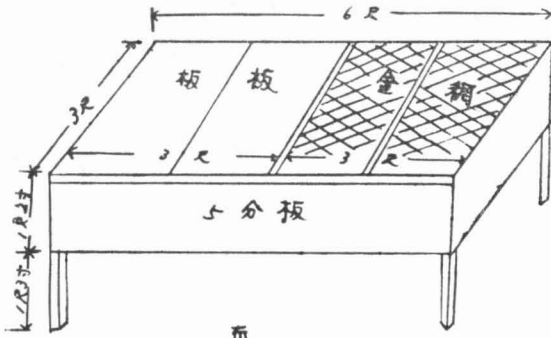
1、育雛の適期

私達、養鶏家は、卵を沢山産ますために、何月のヒナが一番よいか、又何月のヒナが育雛し易いかを考えてからヒナを育てることが必要でありませぬ。

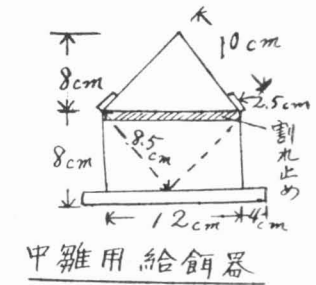
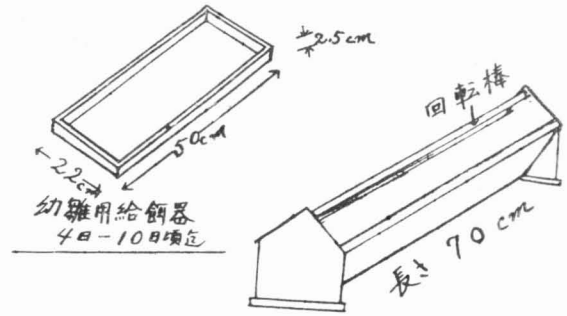
一般に、育すうの適期は、三月中旬から四月中旬までと言はれて居ります。このころにエサ付したヒナは、八月下旬―九月下旬に卵を産み始めます。そして卵価の高い時期に当るので有利であります。又秋の換羽休産の心配も少く、翌年の秋の換羽期間まで一カ年以上も産み続けますから、一羽当二〇〇個以上の産卵は容易であります。

次に、何月に育すうし易いかということから考えると、沖繩の気候は高温、多湿であつて、四月に入つてからの育すうは、高温多湿のためヒナに大害を及ぼすコクジウム症（ヒナが血便をたれる病氣）や、ジフテリア病が発生し易く、又蚊のばい介による鶏痘（一名ホーソウ）の被害も多く、その上、元氣の無いヒナが沢山生じ易いから、あれこれと考えて見ると、四月以後の育すうは非常に困難で、三月か、二月のヒナが、育すう容易で有利であると思ひます。然し二月から三月初めごろまでのヒナは、秋になると幾分換羽しますが、それは一、二割の程度で、残りの七、八割は換羽せずに産み続けます。結局、沖繩での育すうは、三月を中心にして、二月、四月の育すうがよいと思ひます。昨年日本から輸入したヒナの 毎月の輸入状態を調査してみると、五月、六月ごろに相当沢山のヒナが輸入されて居ります。このころのヒナは、暑さと湿度のために、発育が悪く、病氣にもかかり易く、失敗も多かつたと思ひます。日本本

箱型育雛器



注意 金網床の上に約一週間用シロミしく。



中雛用給餌器

土においてさえ、五月六月はほとんど育すうしません。従つて、ヒナの価格は安いです。

2、充分な準備

備えあれば、うれひなしといわれています。

完全な育すうのためには先ず器具類から準備してかからなければならぬと思います。

五〇羽か、一〇〇羽の副業養鶏の場合は、箱型育すう器が用いられます。長さ六尺、巾三尺のこの育すう器は、五〇羽位のヒナにエサ付けして、そのまま一カ月位育てるのに、丁度手ごろです。板は五分厚さのものを使います。箱の底には、五分目金網のかまちを作つて、底から二寸位離しておく、ヒナのふんは、金網の下に落ちるから、掃除に便利です。育すう器の網ふたは、蚊の入りない細い目の金網を用います。温源器は、三〇〇円程度で買えます。

給餌器は、幼ビナ用、中ビナ用、大ビナ用の三種類を準備します。いずれも、ヒナがいつせいに食べられるだけの広さと長さを与えることが大切です。

ヒナの発育に応じて用いられる適当なエサ箱は次のようにします。

一、エサ付後三日間は、エサを新聞紙か、配合飼料袋の上のまいて与え

ます。

二、四一〇日ごろまで、図に示すような、幼ビナ用平型給餌器を用い、三〇羽に一個の割合にします。

三、一〇日過ぎから三〇日までV字型又はU字型エサ箱で与えます。

四、三〇日以後は、中ビナ用V字型エサ箱を二一八羽に一個の割合で準備します。

飲水器は幼ヒナ用、中ビナ用を準備します。

3、器具の消毒

古い育すう器や、エサ箱は、使用前に消毒しておきます。いうまでもなく消毒は、病気の侵入を防ぐために行うものですが、各病菌には、薬に対する抵抗力がちがつていてヒナに発生する白痢病菌は三%のクレゾール石けん液で簡単に死にますが、コクシウム症の原虫は、薬に対する抵抗力が強く煮沸するか、わいている熱い湯にクレゾール石けん液をとかし、クレゾール石けんの三%液を作つて育すう器の消毒にはしやく子でこの熱液をかけてから乾燥すれば効果は大です。こうすれば同時に白痢病菌もその他の病菌も全部消毒出来ます。

(松田佑一) 「ウツク」

発行所 琉球大学農家政学部
 発行人 島袋 俊一
 印刷所 沖繩タイムス社